

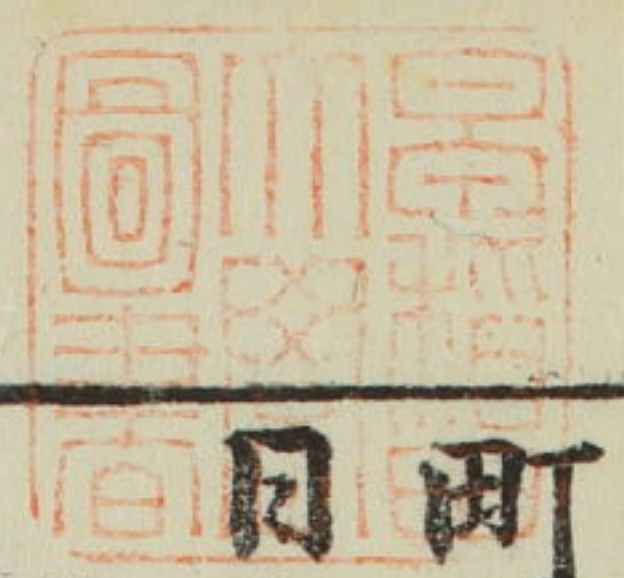
貝原所入囊

貞



仁9
171
七

町人囊底拂卷下



日本は少陰の國とて造化生々氣壯ひたりや世
四世推古帝は沛時人民の數四百九十六万九千餘
人ともや聖武帝は沛時より八百六十三萬
一千餘人とあり兩帝相去事百二十年人民の増益
凡二百六十六万餘人是と唐土の人数は較へると
前漢の人数五千九百五十九万四千九百七十八と
より後漢三國晋南北朝と歴々隋の代より
人較四千六百一萬九千九百五十六人とより次
唐宋元明と歴々今清朝よりより口較凡六千

二百萬と云や漢より隋へ却て人殺減少と其間迄世
多かりけりや隋より清へ至りて一千百年にて人殺
の増加凡一千五百九十八万人かり今日本れに殺凡二
千何百万と云や隋へ推古帝れ何れ相當なり此時日
本れ人凡五百萬は不足して今二千餘万人ある所ハ
唐土の増益より甚多し地凡唐土十分之一は不足
して人殺ハ十分之一より多きなり今清朝の人殺凡
六千二百万人と云や日本當代の人殺二千四百万人
や静と主として人極と云といふを得るべきや静ハ
二のあり動静ハ静と止静の静とあり動静ハ静ハ

僅ハ動と雖も天の運行地のまゝ常に健と
して須臾止時あり動ハ天の進むより静ハ天退く
なり進むは是動退くは又是動也動ハ事ありとい
退く事ありといと陽ハ是動陰ハ是動也動ハ進
退遲速乃何なる是と動静ハ止静ハ動静ハを
離れて論じし天地萬物滅し已はるべきに止
静ハ至るべきところハ陰陽動静ハ生晝夜ハ皆
大氣の性本ありてそのまゝなりといふの理也此理
常に大氣ハ離るるまじ或いは一氣ハ離れて
別は理といふものあり則真の理はあはれいんと

國の貴賤ハそんご懸華と爲つて定じく以飢寒きん乃民
 かくをろご所をれを上國とすへ懸華れ國ハ財宝
 多うて食不足貨素れ國ハ宝貨とくあり多
 食餘りわり食ハ民の本ありて民ハ國の本なり
 本國さうたハ國安くさや

淮南子に寒國ハ壽多く熱國ハ夭多しと云ふ是
人體（てい）乃説（い）めて今委（あ）く考（か）ふ一偏（へん）なりとて
南王坐莫卧（もくわ）爾國ハ煖國（だん）とて長命なる國なり
百歳を起（おこ）る者（もの）此（こ）も其（その）人質素（しつそ）乃風俗

わりて静しずみまりてし鶏けいの食をはとてた猪肉にくは食をは
 事ことと禁きんと按おさする小壽夫せうじうの國くにの寒熱かんねつは事ことは
 人ひとの質しつ素養そよう性せいはより文華ぶんかは風俗ふうふくより大酒肉だいしうにく
 食をの大過だいとは依よて夭死えうしとわが故ゆゑ也然しかれは寒國かんこく乃
 人ひとの酒肉しうにく小傷せうしやうらる事ことすれば煖國えんこくの人ひと夭死えうし多おほ
 き事ことは酒肉しうにくの濕熱しつねつ大過だいとに依よてなり美酒牛羊めいしうぎやう
 猪鹿皆ししぞう大濕熱だいしつねつ乃食地氣をくちきの暖熱だんねつは合あてて元
 氣けいは消しょうとわが故ゆゑなり紅毛人こうもうじん其本國そのほんこくは北方
 寒國かんこくなりとてた啖啗たんたん吧國ぱこく乃大熱國だねつこくは居い住すり
 本國ほんこく乃酒肉しうにくと大寒地だいかんちのゆゑに食をとるゆゑなり

紅毛人壽命五十歳より下る者ほ多くいふ四十年
をて夫れと本國に長命の國なりとて此の地球
星緯多し煖國の人壽命多し事い皆酒肉乃食
より得たり莫卧兩國に長命なる所なりて家とて
日本神社は肉食と禁制とあり上代よりありとて
古事記天子え心の御齒くあり猪肉あり中右の
小天子れ供御し猪鹿木乃肉類ある事と國と神
社に候勢態多しとて四足は肉食なる事あり
若誤く食する所い勿し身體は病患生れと云
然るに信濃國諏訪の神社とて四足とあるは

神供なりとて神人等も食して何の祟患もなしと
なりとて按とる小上右の神明水土乃寒熱と案し
信の萬民の壽夭病患を恤むかのく其水土は氣
小随ひ給して食れ林は氣定む教へ夫れ疾病か
くともんとの神とありとて此故に日本水土乃差
別南海乃徳國日輪運行の線道に迫く大陽
寒水の海潮の氣は受ふ事強くして温暖濕熱
の氣は屬と猪鹿乃肉食濕熱ありて地氣は合
して甚大過くは疾病大に起るべし信列諏訪
那に日本第一乃寒地也湖水凝凍して人馬水

上と付本と地氣む寒燥なり此なり神明人民
小教（免）て肉食乃温補なりて身體と表に
て寒固（つ）た海潮小迫く温熱の氣多き水土
少て肉食然らへき理なり本朝神明の末代を
鑑み孫の多智をばほし事なり

唐土の儒道と日本の神道と似く異なり趣有
是故韓とる学者は神氏より此差別いふ
ことよに智小多れと義勇に多れと也多れと云
いふの事專する小わにをのつては此乃氣風
宋朝の宰相韓魏公（文）德兼備の大賢なり

或時相公の漢として紹きり此を釋眞の漢や
ありと人齋館小一宿て孔子ををくしり小
其夜盗人悲ひて韓公の寢所れ帷幕をひき刀
を抜持て公よりこれい我也盗るはは済（い）ひ公
得んてあめれりといふ公安と事なり今とる
器財百金の直あるは皆海よりと盗りて
是の盗人といひわに願く公れ首公得て西
人（い）獻（い）とてといふ韓公則顔（い）とて少く愛する
名を著れり小盗人感得て公に天下れ
徳量第一の君子なりといひて刀を捨て拜教

一此まふ人ハ泄^ヒ後^ニまふ公の徳量とて試^ミみ^テぬれ
成^リて器財^ヲと^リてあて^テ出^スる公則齋館^ニ乃
器財^ヲと^リ別^ニ償^フい^テ後^ニてい^ハける人ハ後^ニま
あり^テその^ノ程^ニ歴^シて彼^ノ盗人^ハ他^ノ罪科^ヲを捕^メ
ま^シ謀^ルを^ハい^ハに^ハ除^クて^ハつ^テ先^ニに^ハま^シ語^リて韓^ニ
乃^ニ徳量^ノ新^ノの^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
ま^シる^ハ泄^スを^ハま^シ新^ノの^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ
の^ハ徳量^ノを^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
人^ハま^シて日本^ニに^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ
弱^クあり^テま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
弱^クあり^テま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今

沈^シ静^ニ妙^ニなる^ハま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ
ふ^テま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
然^ルる^ハ町人^ハ百^ニ一^ノを^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ
一^ノを^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
大^ニ勢^ニなる^ハ其^ノ後^ニて^ハ最^ニに^ハ頭^ノを^ハぬ^レる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ
ま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
ま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
日^ノま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今
ま^シる^ハ必^ズふ^テま^シる^ハ必^ズ惜^ミて今

を經ねるに此盜人又仇をやるを今と忍化候とて
ふらん日今は神道といひし唯ふは臨人
僅く愛を以て沈静なりて教を常れぬとあるは
徳の君子とてへ近代天下武勇の達人大田原權
入道持資りつじ者乃ぬふ主人しゅじん命とて討
平とつかふに道灌といふの氣色とて氣色なるは
心内とて我々の命の惜うとてあはれとていふは
かく語て首級のとて討き終りてやれとて道灌和
平に達者といふはあはれとていふはあはれと
しふの世より人れ教とて方也道灌は其代の粹魂

公ありては中々盗人首領のていなりといふは是
唐土日本君子れ仁勇に不同なりと知て是を善のふ
わいどて唐より傳へるなりとて世國といふのつ
ら世國の氣風は教化とるがゆゑは人のまゝにてい
は水土なりといふはむづかる理ありと申すなりによ
り傳へし聖語ありはいふやていふのまゝいふをたま
事ありといふや禮度器財文章の風俗をや世國とい
はいふのさうとて貴くといふは氣風乃姦とて他の風
よりおと事あるは質素正直の神風をいふといふ名
五雜俎は倭國儒佛の書紙信と中國の書皆それ

價を求むといふは孟子は若中國の人孟子は携
へて来りしは必其母纘溺と見又一齊来たりと
のふし来未審さまゝとて来し信かゞ又孟子は
禁じし事く不圓一日皇明通紀と云はれ明の太祖
孟子は臣と云ふる草莽のれめたる内臣と云ふを
みづる寇讎のめいといふれを力多みて云く孟子は
めづる惡く廟祭と除んとのふひるありを祖の惡ち
ふ意へちるべしといふ寇讎のめいといふる諸教を世
とす處ありし時代の人民孟子の語と氣味よくあひ
樂討の君よりいふといふ僅く孟子は過ある所い孟子

の語を以實にして信と惡すむの也は故よ太祖乃
惡く信ひしや唐土にわたりし也斯の子細ありしや
日本は人情といふといふ下に大德は君子ありてよ
樂討といふも君子に信とてつた是は裁選して
天下と奪ふの例は此國人情の免とて處ふに
偶皇位と奪ふとてと人ありといふは皆久しといふ
の天罰とていふ此は神裔の帝位は昇る事
不可是を却水との儀也然るふ孟子のいふは
寇讎のといふといふ或一まれ討と誅とる事とて未
君は裁とる事は不同といふは久し日本に於ては

天子に對し孝とて憚るべき也此故よたへ日をお
る事其書然き一統とて禁制あり事とわらん五
雜祖の說實とて虚といわらん其後武家の代と
成て後天子は遠隔の遷りもあらずなく有てより
口實のみふ孟子は禁止とて事ありとて中つて
孝王乃風俗禮儀ふる人道とて國ちんぐ故よ末代
文華にふふとて禮儀奢て僭禮ふる事とて
弘明とて禮儀僭奢とて何い何い人々怒る
成り世の中とて風俗とて禁華極り事い
礼と成る有りや耶の大祖胡之の祿を清り萬

代の功をえ給ひし世の大功とて終つらん大祖大
明律とて之を萬世に龜鑑とてあらずとていひた聖
乃仁義復んと欲せりた禮儀故華に人々實
素とていひや僭禮多とて大祖の謚に欽明啓運
後德成功統とて孝高皇帝といひた宗乃謚は體
天弘道高明廣運聖武神功純仁至孝文皇帝と
そより其以下の代りもいひ謚の類い也此謚とて
小堯舜禹湯文武の謚といひいひた文字か
うと秦始皇帝六國公併とて一統有り功德三皇
五帝とてあらずとて故て皇帝れとて是れ始

皇代悪行のつちには未だして悪く謗も亦未也
後代の天子始皇の政道とい悪くある百王帝は其の
より事なりて必らず皇帝れよふべきは漢、
唐、宋、明といふる皇帝の早と遅とすれは漢、唐、
宋、明然り明朝より斯なる事なかり

書は其の事多きものなりといふや儒書
十三經註解數百卷諸子百家法註數千卷歷
史類數千卷各其末書細註と合して數万卷
其他の雜書は不知隱微是皆身試せり家私
この國は治り天下太平ありあはるの國也其經

書の義理漢唐のとき者誤りて誤りて誤りて
して宋朝よりして大儒多く出でて聖經注
解其の儒の語は其の悉く改むるで治國平天
下の學術世に大成と然るは其の乃より不
能く其の終に中國蒙るの有りなり明乃
其祖是儒道は其信ありて宋儒は闕るを補ひ
十六世二百七十餘年の治平ありて其間編作の
儒書不可勝計唐土の學術は其全備と云
ふは國天下に北狄の有りあり其意は
其事也其の書籍文章國土は充満し

世界を分一の上國なるの學術其徳用いげくや
是書はるる事多き國の迷れいふ多きとい
けりや日本は上代より古き書少くして神道王は明
らふ國鏡の民直なりとて末代は乃て書籍國
土に充溢し人民文筆多しとて及く神道王は
抑々國驕る人仍謀多しをいふ

佛は天竺の如く相傳の教なり然れども其は其法
盡く唐土に傳へりて今より佛は唐土に傳へり
經傳紛失なりとや吾國の法地乃國は傳えて
吾國より傳へりといふなり南天竺の陀

近代他邦はるる事多し佛は其徳用い天竺の如く
國にふたり佛は其徳用い天竺の如く
中より藏經二千五百部九千七百餘卷只
是即心成佛の教なり然るふ自乃國は其
他の如く奪りて是とて即心成佛なりとい
ふは日本は武勇とて今に文筆とて多し
而も不易に要害の國世界第一なり人情氣風
文筆器財は其多き國は彩いなり別は二風
乃安なりて藝能細工なりといふる其好や
處清潔は沈黙なりといふなり其好や

りつこし姿なりとて中し是此地主の神風なり
あつふま代儒佛は言多くなり唐土の王乃
も弘教ふ人多くなりていつく異國の氣水
うはりて異國の風神をぬじまの風候とてや
是と俗に異國の姿弘奥とて萬民を慕はせ
い質素とて悪く常の風を賞まばりて珍く奇
貴へるやとみりふれとて百歳をも過さ
後いふ異國の風神も多しとてすやとみり
とは先いてん中てさるいふは人々多し
世界萬國の開基先後を多くとてなりて唐土の人

唐土を最初の開く人韃靼天子其外四方の
あつ其國分て世界は最初とて中國は多し
竟に窮つてもまた天地の一圓渾然の體ありて初
靜始終一時なりとていふなり其宣彼の方へ早く
開闢此方へ早く開闢とての理なりや其中萬
國人物の開基もあつていふなり世運の早晏は
そのはるかにありて然れども其開基早きを
もて貴國とて早きなりとて賤國とていふなり
うふとてつまた天地開闢の始に陰陽五行なり
なりて有情なるは生とて水と火と木と生るなり

うら有情の氣化有るは有情の虫魚の類なりて
後鳥獸氣化して鳥獸なりて後人倫氣化して
草木の雜庸の類先にして靈秀なるもの後
生にして鳥獸の小鳥小獸なりて後小鳥大獸
なりて凡庸先にして後聖人出づるなりて
草木の實れぬ先その形もなりて實れ香味
の後生熟と形と色といふ外なるなりて強
香味の内なるなりて貴れ也此は一花の開く事
外なるなりては香味の後生熟と色といふ實は
先外を堅くするに核仁クワシは内なるなりて是貴れ物

はきくして賤きものなり早く生るなりては
世界萬物に開基其地の陽氣は偏るなりて
早く開基氣化陰氣は偏るなりては早く
氣化其陰陽中心の氣なるなりて遅速の中
開基氣化なりて都て物の氣は始中終あり
始と終といふ形氣の中心といふは中氣は
天地萬物の中心の氣なるなりては
乃開基早く生るなりては

日本國は乃て佛者の粟教國と儒者の中國
より開基して屬國なりとせり今も此世界

乃の如くいふべし此天地世界といふ實に測量の
考驗なりて其間大日本は萬五千里ありて是曠
蕩の說より其内鴻洲多しといふ大日本の如
かりとのハわりのより日本と第アらずといふは
豈に果敢て聞ていふや則日本は必りて大地の三
百六十度なる配面よりふ東西十二度と得たり天
の三十六禽は配屬をじり附け十二度は一禽の
分野なり其宿は亢星は屬とて七宿紫の角星
の終度とて東よりまうる一禽二星の氣は屬に
天の星禽は萬物氣化の始なり日本は境を

わて靈氣化の神人ありて人々や日本の禽は蛟
龍といふなり

文字の言語の符契とて人用を達せられざるあり
此故に世界萬國の文字あり偶文字あり
圓と有といふ其圓相應れ符契ありといふは
其文字の如くふみは五音悉曇の如く習字の
つとといふ文字の數より字或四千八字より多
かり紅毛人の文字は二十四文字ありて二字は
とるを合とて一字に都合四千八字と云ふ者も其
一字の筆畫四五畫より多きといふは云ふも唐

土の文字に其數甚多く筆畫多うして甚じいなり
世界第一なりあるは外國の文字より人用するを通
達して不足は唐土に文字多かるは人用通達
小ゆかり別よりけいけいなるは外國の
詞いふ訓語めで唐土の詞い韻語なるはけいけい
訓語に其意義詞のふりわけて文字より意は文字
に假る用るものなり其文字はけいけいなるは詞を
きく則ちの諸意を一通達と文字と待するは日本
に和語の類別是なり唐土の韻語に文字に依るに
諸意解にけいけい此は詩文に其句韻のけいけい

其意義解にけいけい文字はけいけい其意義と
者なりけいけい文字と離れて語句のけいけい
語は壁に東の字の韻とてけいけいの韻中に東の
字の意義同いなり字註は依て目出の方なり
韻法に平上去入四聲用合於けいけいして安て迷ふ事
多し訓語にけいけい和語にけいけいけいけい目出
けいけい文字とてけいけいけいけい則ち目出
事はけいけい東の字の註訓に即けいけいけい
けいけいけいけいけいけいけいけいけい
唐土のけいけい韻語の國只一國なり日本に東の

男小字露國といふ此國乃胡唐土の如く顔語
かりは老の語なり此れ萬國の日本れ和語
先としてふ訓語也訓語の文字より以顔語の文
字多うといふ其用達しに多き多き故に多
け筆畫多うといふ其形をくらにといふや未代は筆
盛なりふりて風流巧妙の字様を好みて一
字十體百體の姿と造り奇異の字形と好む
とて一は是れ勢なりて好むと多し傲ふ事と
あり義之の義の字を喬とて子昂の字は
躍とて火の字は暖とて其の角をいつくや

歐陽修の語に物極めて美なるものよりて氣の偏を
得るなりて又紅顔人の勝るものいふ多し壽命
ありと識る身珍を好むとて天地の偏氣を悦
ぶは俗見也然るに人勝るとて富む人天地の偏
運を受ふ事厚なり夫貪人の間の常成るや
生れはれはれとて食ひのほろ母ををたれ
つゝつた衣服に當て造るふわといふなり
財を求むるの始なり天地の萬物を生ずは粗
なるものなりて多し精なるものいふ寡は貪人の
の常なり然るに多し富む人の偏なる故に寡

此類は富の貧中より豊に移り又貧の富に移り
榮落なり貧より榮落なり此理なり我
人の富貴を樂いむる意の情

文質彬々たる人君子たる彬々たる人
其の質ありてその文ありといふはこれ文の質
して質の法より陽の常に進むる有餘易く進
むる極まる所の意といふなり人事の進む退く
も有餘なり進む退くも此の理なり是に就いて
わたり人れ道する凡萬物各其の質ありて其の

いふは質の光ありて文の後也一樹の枝葉繁く花
とくは物に其の壽久しくなり葉の繁く其の壽
久しくは松柏樟樟の如きものなり其の壽
壽長く櫻梅桃李は艶美なり其の壽久しくは
花の文ありて葉の質なり都て草木の花多きもの
は葉の質より勝るものは葉の月を経て落つた
花の月收まりて散るものなり文のその四つありて
質六七なりと彬々たるは文のその四つありて
五つは地の花なり六つは地の質なり屬一七曜と
萬物に文の屬は七文質は七質是は富貴なり

唐より日本に末代の風俗は文華にありて古禮は實
を失つた。多し寺社廟堂は額を飾り唐土より
傳へ習ふ人も多し。然れども末代の額はなほ能書
といへる官位後の元祐、書とありたり。又額
の表は姓名とあり。書令京都の古寺古社は上代名
筆の額あり。多くは筆者の名はしるはく額の
裏に筆者の姓名あり。有りていふなり。やや
尋らふ或人のいふに思ふに、たゞ其の意に
いふといふ字とて本尊神像の額に表を
めて其下に名を貴けり。頭上は拜戴、表に名を

を發とし、世に公家なる長けり。或は仁徳の天皇と
いふ額表に姓名は著し。其は教のむき。唐土に
如斯き。根本異國より傳へたる事。みれば唐土は帝
統の世移りて姓はつて朝廷の政風俗を失ひ。月
本に皇統の開闢より多岐あり。天子一姓をばし。ん
故禁裏上代のなまかなは。朝廷に立てず。失此故
り異國より傳へ慣つる。唐土の俗より。唐土の
失ひ。つらき。いふ。況や本朝の禮神社と宗教
する事。むろ。然るに近代唐土の風俗あり。と能
書とて。そのむろ。いふ。官位後の元祐。とて。嫌

かく神社廟堂の額と書きしは額表は姓名公牘多く
書記とて思ふべきまは末代の中より和漢乃凡俗に
ふりてしるす也文字の道は幼ふれ器也是は愛敬
とて人見と謹しむるまゝんは文豈滅の文やんや
和漢の語の差別といふは日本に語の體用とはなり
唐土の語は用體とてなりけり言の君ふつふはこと
いはくむくといふ君とてその體もつとていふは
その用なり體とて先といひて用は後といふ順也然
る唐土の詞の事なる君といひおとしむといひあ
用とて先といひ體を後といふて是違ふるなり其文

字公日本に於て讀むに下より上まで事君愛子
 とすも是自然の理なりてむれども其
 理いふと按るとふ日本國の東方にあり唐土の西也
 天體の九旋と七曜の右旋と天の體より七曜の周
 ちりたる旋の體とをより東より西より右旋の周
 ををより東より西より地の萬物も皆是
 右旋たる旋の運行は皆造化生成せざるは況や
 五声十二律人語鳥啼獸吼ものく水土自然の細
 音も亦なるを應ぜざる事はいふんや人偏に言語
 謠歌をわたりてけふの日本に訓詁の衆國に詞語

と神明の受より處を以て蓋に依り其人の形
體一毛を譲りて其人の貌より其人の形
其人の形より其人の感格を以て道理するに
祀より其人の尸を以て其人の鬼神の代り人を
立て鬼神と見へ憑りて是を以て尸を以て
諸より其人の訓より其人の義より其人の
髪髯より其人の孝子に誠情を盡し其人の
其人より其人の事より其人の用より其人の
天地の間より其人の類人而して非と萬物を悉く
全く同一と爲る事なり我身に在る我の如く

我身に在る我の如くや耳目鼻舌毛髮四肢百
骸全く我體に同じ者い天地始終一元の回を
我身に在る我の如くや耳目鼻舌毛髮四肢百
骸全く我體に同じ者い天地始終一元の回を
重盡く相同し其物は是形體あり其の常あり
自然妙也豈一毛とあり其人の如くや其人の
教像より鬼神に憑りて其人の神主教像の差別
なり其の況や尸を以て其人の尸を以て其人の
日本の神道儒佛の如く其の此國自然の風俗
ありて唐土上古の儒道不相叶はるや諸社の祀式

又い神體乃儀を以て神體と云ふなり或いは
神體に或は樹木或は鏡又ハ御幣と神體に
或は矢矧刀或は木像畫像と神體とすもの
其社乃故實舊例と云ふて用ひたり或は神體の
社といふ神體にして寶殿ありや神明ハ云體
と物と云ふて不存といふは社ハ神代より
社乃後代の靈社なり是社ハ神像と云神體
と云社乃神明と靈魂と祀ふれ差別あり神
と云ふも云ふる日本に人ハ先祖の靈魂と祀ふ
神像と用ひたり例式なりわたり云ふれも四

庶民ハ神像と祀ふは單ハ神像と云ふなり
いんや程子の説ハ白屋ノ家ハ神と云ふ
牌子ハ用ふといふハ儒道を信と云ふハ白
屋の庶民ハ神と用ふハ儲禮なり
牌子といふ世俗ハ子位牌乃數なり但今時
位牌といふ金銀彩色とて美々然るハ庶民
凡下れ用ふといふハ白木又ハ黒漆とて古
代の凡ハ牌子ハ此數なり志わん人ハ主
を省略と素木の位牌と用ひたり云々

石町人囊同底拂の二書ハ長崎乃隠翁求林翁
 西川老先生編集後之也先生去年の冬東へたりま
 内郷の篤翁却より一冊我書にらるるに彼還郷
 送る書籍物よりのはやむ人の人此書に事よ及我國
 意を求るるも先生ゆりたりと因る同郷の学友其
 ちよりいへる毎に及る遂に此書に崎陽より得たり其町
 人囊と記するは先生の謙ハ辞めしとて早く採ふふり
 とも承く世に廣めは士農工商の賢達とも成るんとす
 享保己亥年林鐘穀日

崎陽求林翁西川先生撰述書目

- | | | | |
|------------------------|----|------------|----|
| 華夷通商考 | 五冊 | 虞書曆象俗解 | 三冊 |
| 怪異辨斷 | 八冊 | 兩儀集說外書天文義理 | 三冊 |
| 教童曆談 | 三冊 | 幹枝數原 | 一冊 |
| 天文和語注 | 一冊 | 運世年卦考 | 一冊 |
| 日中水土考 | 一冊 | 氣運盛衰論 | 一冊 |
| 十二國人物圖說 | 二冊 | 天人五行解 | 二冊 |
| 町人囊 <small>附底拂</small> | 七冊 | 右旋有無論 | 二冊 |
| 長崎夜話 | 五冊 | 右七部未刻 | |

河陽の篤紙都よりわが我書紙のそとにわが彼書紙の
 造り書籍物よりのはなから人の人此書紙をよるゝ我紙て
 意へ求といつても先生ゆりし紙と因る同郷の書友集
 ちるいゝる毎といふも遂に世書紙の洛陽より得る人其町
 人書紙と云ふる先生の謙け辞めしと云ふは早く振ふふり
 とも承りては度々の書紙上同の書紙集と云ふもいふるも
 宮保に亥年林鍾穀日 洛陽書林柳村研書

三都 發行 書林

同 浅州茅町	同 日本橋通	同 芝神明前	同 日本橋通	同 本石町十軒店	同 中橋廣小路	同 日本橋通	京都寺町通	大阪心齋橋通
須原屋伊兵衛 八	山城屋佐兵衛	岡田屋嘉七	小田屋新兵衛	英大助	西宮弥兵衛	金花堂佐助	勝村治右衛門	秋田屋太右衛門

